

梶田叡一著「生き方の心理学 自己意識論集IV」東京書籍、2021年1月30日刊を読む

## 自己実現の教育

### 1. 「自己実現」とは

- (1) 自分の一生を自分なりに生き切っていけるようになること
- (2) 自分自身に与えられた「運命」「使命」にどう対処していくか、そこで、自分なりの充実をどう実現していくか
- (3) こうした方向に向けて子どもを育てていく教育こそ、本当の意味での「自己実現の教育」

### 2. 「自己実現教育」の目標

#### (1) 内的エネルギーの汲み上げを

- ① その人の内面から次々にエネルギーが湧き出てくるような下地作りを
- ② 本当に内面からエネルギーが出てくるためには、自分自身に対して素直になって、自分の内面にある自分なりの感覚・感性に足を降ろす
- ③ 自分の実感・納得・本音で考えていくことを大事にする
  - ・ 自分にピンとくるものを見つけて、はじめてエネルギーが出てくる
  - ・ 自分の本音の世界を自分で追求し探求し、大事にしていく

#### (2) 内的に自分なりの「ジャイロスコープ(方向感覚)」、「内的な判断軸」を

- ① 自分の実感として本当にやりたいこと、本当にやらなくてはならないことは何だろうかといつも吟味している
- ② 自分にとってどうしても大事に思える、大事にしなくてはならないという感覚があるか
- ③ 自分がこれまで生きてきた中での体験に照らして考えたとき、本当に自分にそれが納得できるのだろうか考える

#### \* 「内的な判断軸」

— 「かくすれば、かくなるものと知りながら、やむにやまれぬ大和魂」(吉田松陰) —  
内的に促すものに従って、自分がやるべきだと思ったことをやる、大和魂

#### (3) 異なった実感世界に対して心を開く

— 自分と異質な世界に生きている人、自分と異質な実感・納得・本音を持っている人、こういう人のものの見方・考え方、発言に対して虚心坦懐に耳を傾け、心を開いていける能力を養うこと —

- ① 「自分の実感は何だろう、自分の納得は何だろう、自分の本音は何だろうということを自分の中でよく吟味して、それにもとづいて考えたり判断したりできるようになる」と同時に、「他の人が持つ自分と異なった実感や納得や本音にも本当にこだわって考えるという姿勢や能力」も同時に養う
- ② 「お互いの実感の違いにお互いが気付いて互いに尊重し合うという気持ち」が欠けると、「自分だけが正義の味方みたいな気持ちになって、自分と違う感覚を持つ人を見たら叫弾する」ことしかできなくなる

\* 本人はいいつもりであろうが、偏狭な人間となってしまう

③「正義というものは、必ずしも一つではない」

- ・多様な正義に対して心を開く
- ・自分とは異質な世界を持つ人に対して心を開く
- ・これは訓練によってはじめて実現するの能力

(4)概念(ロゴス)化した自分なりの原理を

一生きていくうえで自分なりの原理をはっきりしていきたい一

- ・このためにも小学生・中学生から、少しずつそういう内的原理と出会わせた方がよい
- ・大事だと思われる言葉を子どもたちにぶつけること

①「人生青天井」—人生、生きている間、青天井！

- ・五十歳になっても、六十歳になっても、七十歳になっても青天井である！
- ・死ぬ間際まで青天井！

②「生かされている」—それぞれなりに生かされている、活動の舞台を与えられている

- ・一つの生命として発展するよう支えられている
- ・そういうことへの気付き！
- ・人々の中ですべて与えられていると考えていい
- ・一人ひとりが大切な生命をもらって、大自然に生かされ、また互いに生かし合っている
- ・しんどいときはそれなりにやっていけばいい。そういう割り切り方をこれからは大切に

③「照一隅」(一隅を照らす)

「一日なさざれば、一日食わず」

- ・自分は世界中を照らしてやろうと思ってもそれは無理である。自分の直接責任を負える一隅、一つのコーナーしか照らすことは不可能である
- ・本当に大切なのは、自分が照らすべき一つの小さな片隅をちゃんと照らしきるかどうか
- ・自分の生きていく上で必要となる最低限のことくらいは、自分で後始末する
- ・大きなことは考えなくていい、しかし、やるべきことは最低限のこととしてやる

④「武士道とは死ぬことと見つけたり」(葉隠)

- ・「2つの道があって、得になる道と損になる道、生きる道と死ぬ道があれば、ためらわないで、損になる道、死ぬ道を行け」
- ・「恋で一番いいのは忍ぶ恋である」
- ・「憂きことのなほこの上に積もれかし限りある身の力試さん」(熊沢蕃山)  
\* いいことがもつともつと積み重なってくれというのではなく、いやなことであっても「もっと来い」と積極的な気持ちで迎え、取り組んでいかないといけない
- ・「我に七難八苦を与えたまえ」(山中鹿介)  
\* 艱難辛苦に対して積極的に立ち向かう姿勢を子どもたちに持たせたい

⑤「生き方のモデルとしての教師ということも」

P178 ~ 227

<コメント>

「自己実現」とは何か。「自己実現」を目指す教育はどのように行ったらよいか。梶田先生の御著書から大いに学びたい。

2021年10月4日(木) 林明夫